

中央アルプス

2000年10月7日～9日

中田切川

乾飛鳥(帯広労山)、松原憲彦(北大山の会)

10月7日(晴れ) 中央道駒ヶ根インター出口は連休初日で渋滞との事だが、中田切川は静かなもので我々のみ。養命酒工場の裏手の林道から車で堰堤まで。今回は北海道からゲストを迎えての入渓。秋の空と、半端な紅葉。二段堰堤を2セット越えるが、大きいため楽じゃない。梯子から河原に降り立てば、前上方に林道が確認されて大いに興醒める。荒井沢を合わせた先の「煙りの滝」は、チョックストーン持ちの登れない滝で安易に巻いてしまう。燕滝も弱点の無い優美な直瀑で、さらりと巻いて越える。標高1500mの右岸にて幕営。飲酒後の薪集めに消耗し、二人共にふらふらになる。

10月8日(晴れ後曇り) 朝の冷え込みに起こされる。のんびり準備して、まずはゴーロ歩きから。徐々に両岸が立ち、それにつれ岩も大きくなる。大岩のゴーロ滝をショルダーで越えて行くと、前方高くにソーマン流しの滝が望まれる。支沢に掛かる滝だろうと楽観してたら、それが本流の「大タル」の下半部だと判明するのにそう時間はかからなかった。その大タルまでには、両岸立った中に割合難しめの滝が続き、5m滝では1ピッチ水際にロープを出した。濡れて、悲しくなる。さて、ハイライトの大タルだが、逃げ腰になって巻きにかかるほどのものではない。1段目のチムニー滝は水流左脇のU字スラブを登ったが、中々に渋い。2段目右岸の傾斜のあるカンテラインを登り切ると、3段目の20m直瀑の端正な姿が真近に拝める。これには敬意を表して、ブッシュに入ってから落ち口へロープを張る。これにて核心部は終了なのだが、ここから急に岩が脆くなって、滝の巻きでは今暫くは気が抜けない。標高2400mで市町界の沢と別れ、ガレ涸れ沢を西へ進むが、何故か中央アルプスは水切れしてからの源頭が実に長く感じられる。藪漕ぎ無しで主稜線に詰めあげる。御嶽はまたしても傘を被っている。空木の頂上に着いた途端にみぞれが落ちてきたので、避難小屋に避難し、宿泊させてもらう。久しぶりの山小屋は実に快適そのもの。

10月9日(小雨後晴れ) 朝になっても時折雨の落ちる天候に変わりなく、大荒井沢下降の計画をあっさりと放棄し、長い池山尾根を辿って下山。恥ずかしながら道路に出てから迷ってしまった。(松原憲彦)

タイム 10月7日 林道終点発10:45 - 標高1500m B P 14:30 / 8日 出発8:00 - 稜線14